

## 中国近隣諸国との紛争への対応

2010年9月29日 フィナンシャルタイムズ

デイヴィッド・ピリング

尖閣列島での中国漁船船長の逮捕に対する中国の反応は極めて手荒なもので、これに屈服した日本は船長を釈放したが、中国はなお謝罪と賠償を求めている。

中国は民間人4人の逮捕、レアアースの輸出禁止、政府高官の交流停止、反日デモの街頭での許可、さらにはスマップの公演までも阻止した。

外交筋は中国のこうした姿勢に深い懸念を示し、中国は強硬姿勢を上回る侵略的な姿勢をとっていると見る。

日本が強い経済力を有し、高度な防衛力を備えながら中国に対抗できないとすれば、中国との紛争を抱える近隣の小国はどうかと不安を抱く。

中国はこれまで近隣諸国との紛争を表立てず、平和的な国として振舞ってきた。しかしこうした時代は終わった。中国は自国の利益を強く表に出してきた。中国の海軍は横暴な戦争ゲームを展開している。中国政府はベトナムと共同で南シナ海での開発に参加したエクソンモービルなど西欧の企業に対し、中国領域での開発を認めないと警告している。

中国の退役軍人は、南シナ海は中国の国益の中枢をなすと発言している。中国は南シナ海をチベットや台湾と同じに扱う可能性を増しているが、そうなればマラッカ海峡に連なる航路を支配することになり、ここに接するベトナム、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ブルネイなどには深刻な問題となる。これは米国が南米を自国の裏庭のように扱ったのに匹敵する中国のモンロー主義と言える事態を生む。

中国はナショナリズムのはげきをこれまで友好関係を保ってきた近隣諸国に向けており、ロシアのプーチンと同じやり方だと見る米国のジャーナリストもある。

クリントン国務長官は、中国に対し米国は南シナ海で権益を持ち、この地域での紛争の解決に乗り出すと表明したが、これも中国を刺激したようだ。

鄧小平は、力を隠して時間を待つべしとしたが、中国は今や力を発揮する時期として行動しているようである。

中国が力を増せば、これにともない覇権を求めるのは当然であろう。米国は前世紀から力を誇示することを躊躇せず、パナマ運河を支配し、イラン、チリなどの政権転覆に加担し、インドシナ、中東で戦った。太平洋は米国の湖のように今日まで扱ってきた。

これに比べれば中国の領土問題での野心はかなり小さいと言える。

しかし米国は民主主義を広め、世界の諸国と良好な関係を築くことが出来た。まだ貧しく、全体主義的な中国が覇権を強めたら、アジアの諸国に如何なる影響が及ぶかとの観点からも、今回の日本と中国の紛争の行方が注目される。

中山 隆